

高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行

NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224

滋賀県高島市安曇川町上小川1225-1

藤樹書院・良知館内

電話・FAX 0740(32)4156

藤樹賞の表彰

会長 川越 清司

藤樹賞を、松本孝太郎氏と萬木甚一良氏両名の方に授与する事に決まりました。

6月の総会終了後に藤樹賞の贈呈式を行いました。松本先生は体調を崩され残念ながら欠席されました。萬木先生も体調万全でないなかを出席していただきました。

新しい組織になり初めての藤樹賞です。前は平成22年に久保田暁一先生が受賞されておられます。

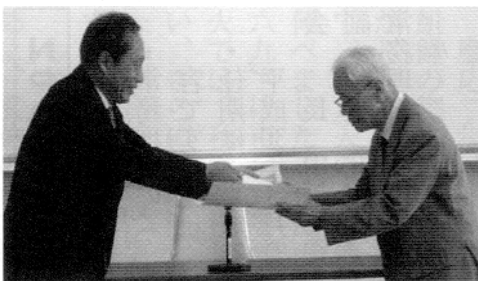
藤樹賞の趣旨は、先生の教えを普及し顕彰された団体・個人に与えられるとうたわれています。

数年前より理事会に於いて話し合いましたが、余りにも範囲が広く選考の難しさに直面してしまいましたところ、理事より「灯台もと暗し、我等のすぐ近くにおられるのではないか」と発言があり、松本先生・萬木先生の両名を挙げられました。多胡表彰委員長が正式に議題に上げ理事全員の賛同を得て決定した次第です。ここに報告を致します。

松本先生におかれましては、昭和22年朽木東小学校に赴任、爾来39年間に及ぶ教職人生、藤樹記念館設立準備室室長、その後同初代館長に就任され藤波幼稚園園長・理事長に就任。現在は清水安三先生ゆかりの桜美林大学孔子学院高島学堂名誉学長

を務められておられます。藤樹先生一筋の研究の中、又父君である松本義懿先生の書きとどめられた文章を整理し、広く我々に知らしめられています。余談ではありますが、義懿先生の残された県立藤樹女学校・安曇川中学校創立記念式辞やその他多くの原稿は墨で推敲の跡が窺えるもので、藤樹先生の研究を指すものにとっては第1級の資料と思えます。

又、萬木先生におかれましては、滋賀師範学校を卒業後教職に就かれ、滋賀県教育委員会を経て、青柳小学校校長を退職後、藤樹記念館長を務められました。その間に「教育功労賞」(文部大臣表彰)を受けられておられます。教員時代には藤樹先生の教えをわかりやすく、子供たちや回りの先生方にも細かく伝えて来られました。私も青柳小学校時代に教えを受けた一人です。



藤樹賞授与式には、肅々と式次第に沿って進んでいましたが、萬木先生に賞状を渡す場面になった時に、はからずも胸が詰まって声が出ませんでした。60

年前に教えて戴いた恩師に賞状を渡すとは、そんなことは想像も出来なかつたのに、現実にはそのような事になっている状態に感無量になり声を詰まらせました。皆様には大変迷惑をおかけしたこと申し訳ないです。

式後は萬木先生のお話を聞かせていただきました。県教育委員会学校教育課の在任中に於ける様子を、涙あり笑いあり、いつもと違う先生の切り口でお話を聞かせて頂き、最後に日々の生活において常に心の物差しに「慎独」の言葉を胸に留める事を話され、終了致しました。

記念品は多胡委員長の英断で、それぞれのお顔の写真をクリスタルガラスにレーザー光線を利用して、致良知を表現するという現在の技術を駆使して仕上げていただきました。藤樹先生もえらい時代が変わったものだと思えます。

次代の藤樹賞を目指して、先生の教えである五事を正す 貌、言、視、聴、思、心をこめてやさしく、思いやりのある言葉で、温かいまなざしで、よく聞いて、まごころをこめて相手の事を思うこと。日々の生活に活かしたいものです。今後は藤樹先生がしづれたと言われている論語と王陽明、そのうちの論語を初心者の方を対象に素読より学んで、藤樹会の運営の一部になればと思っています。